

建設経緯

慶留間橋は、沖縄本島より西方約41kmに位置する慶良間諸島の中で南端に位置する外地島と慶留間島を結ぶ橋である。外地島は慶良間諸島で唯一の空港を有する島である。空港を起点として各離島を橋で結ぶことが地元の人々の永年の夢であり、願いであった。この要望に応じて慶留間橋は昭和60年2月に着工し、平成元年2月の開通により、外地島と慶留間島間が一体化された。

年月日	事項
昭和58年	予備設計を行い橋梁型式が決定される
昭和59年	詳細設計完了
昭和60年2月	本工事に着手し下部工工事が始まる
昭和61年3月	下部工工事完了
昭和61年9月	上部工工事始まる
昭和63年1月	上部工連結される
平成元年2月16日	開通

慶留間島の概要

人口：67人（平成27年）

世帯数：40戸（平成27年）

面積：1.15km²

周囲：4.9km

慶良間空港がある外地島と沖縄本島から定期船が入港する阿嘉島との間に位置する。慶良間空港は船の欠航時や、緊急輸送時にヘリポートとして利用されている。

慶留間橋の特色

- 1 広く採用されているコンクリートや部材にプレストレスを導入するフレシネー工法を採用。
- 2 経済的に優れるラーメン橋で、航路部の支間長（180m）を確保。



慶良間諸島の自然

慶良間諸島（慶留間島、阿嘉島、座間味島、渡嘉敷島など有人島と無人島を含めて大小30余りの島からなる島嶼群）海域は、多種類の珊瑚が高密度に生息しており、水鳥の繁殖地、ザトウクジラの繁殖地でもあることから、動植物にとって重要な水域として平成17年11月8日ラムサール条約（特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約）指定地として登録された。

更に慶良間地域は、沖縄海岸国定公園から削除され、平成26年3月5日に新たに慶良間諸島国立公園として国立公園に指定された。同海域は、スクーバダイビング、ホエールウォッチングのポイントとして観光客に人気の高い場所となっている。



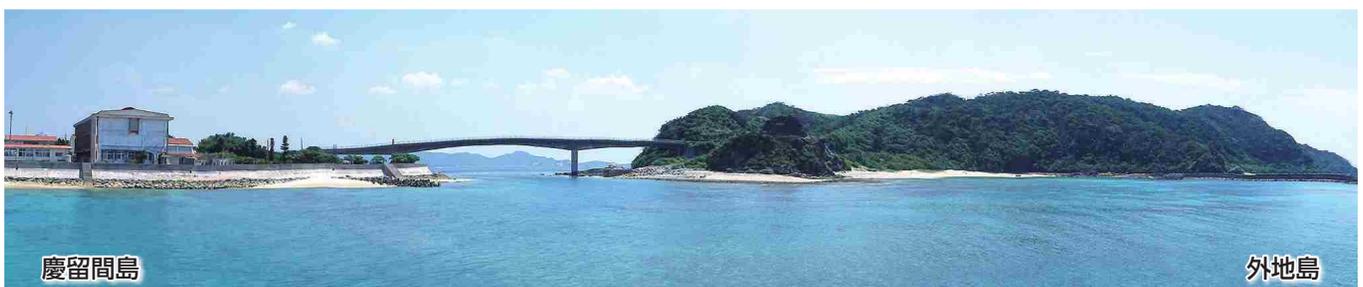
親柱



国立公園記念碑



慶留間空港

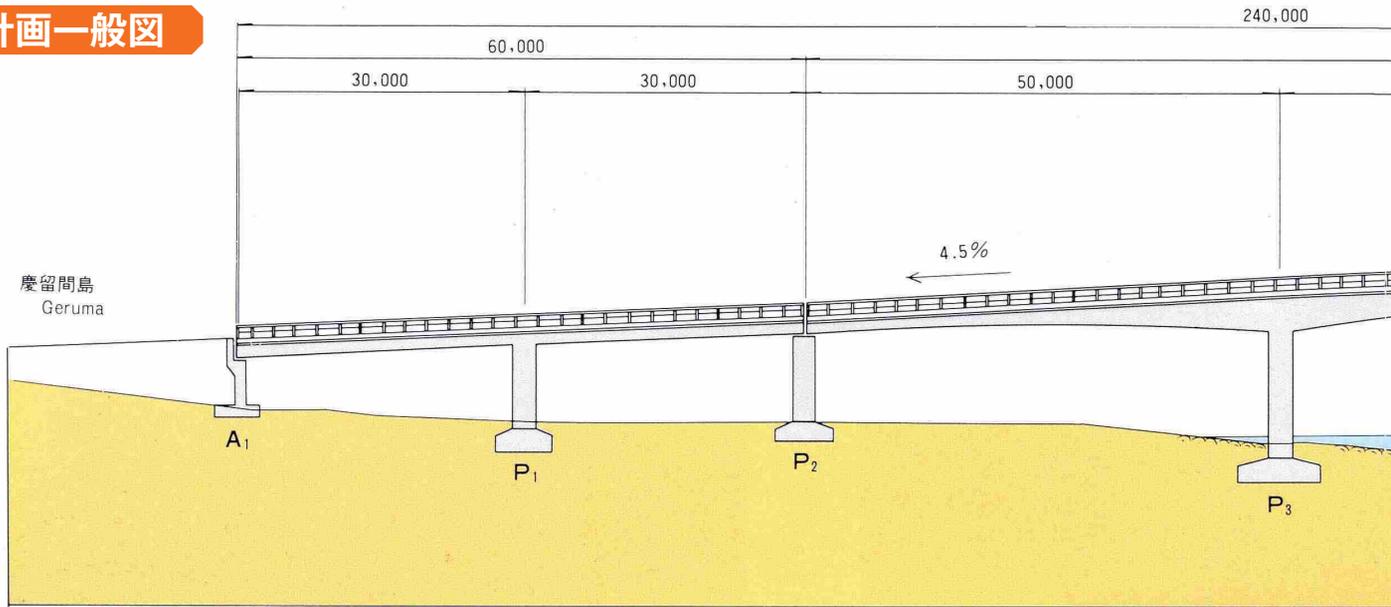


慶留間島

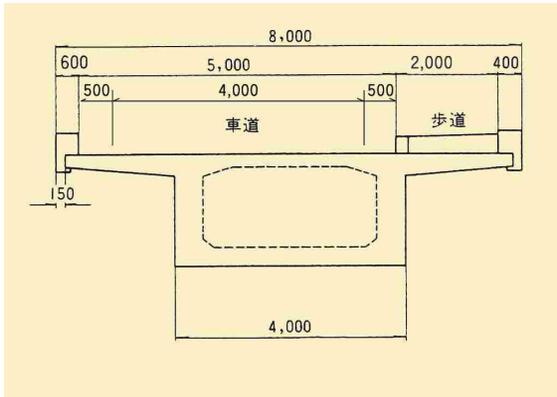
外地島

側面

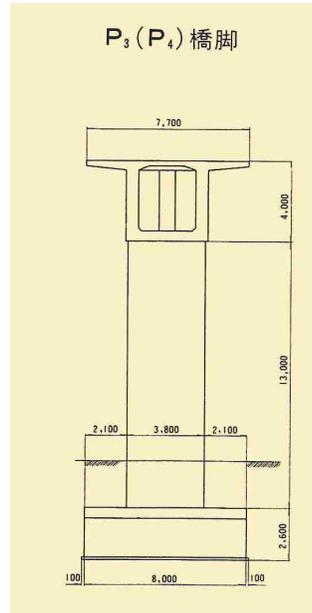
計画一般図



標準断面図



下部工正面図



●構造形式

上部工形式

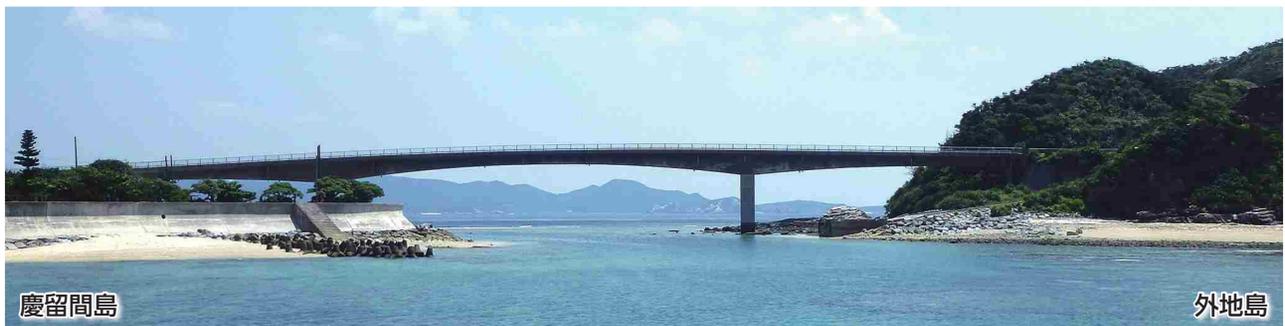
航路部：PC3径間連続ラーメン橋
標準部：PC2径間連続ラーメン橋

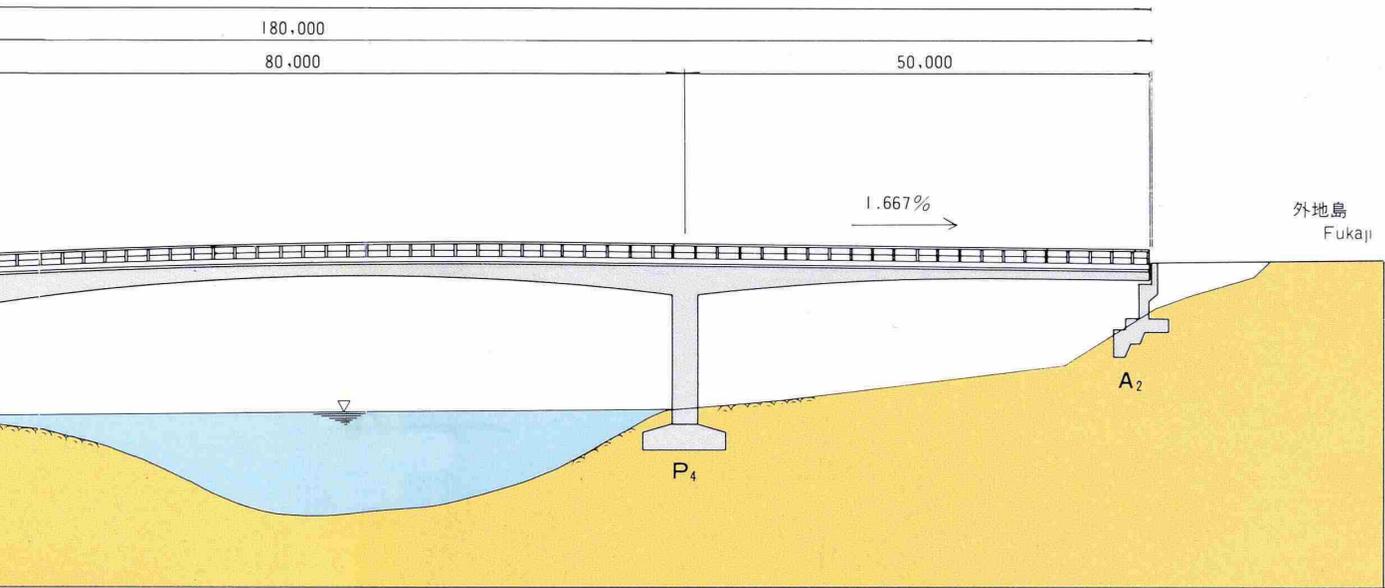
下部工形式

A₁、A₂橋台：逆T式橋台
P₁～P₄橋脚：壁式橋脚

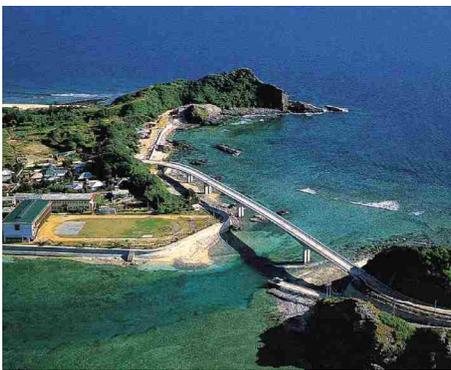
基礎工形式

A₁、A₂橋台：直接基礎
P₁～P₄橋脚：直接基礎





架設



全景



正面 (慶留間島から外地島向け)

上部工施工要領図

